「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0902　◇◆◇　　26/08/05

【　7 月末に日米協調介入観測、2 ヵ月連続の「大変動」期待も!?　】

7 月末に 2 日連続で市場介入が実施されたこともあり、7 月の月間変動は今年 2 番目の大変動となる 6.68 円（157.31-163.99 円）を記録した。
そうしたなか、筆者は先週の当レターで「今年の見通しを大ハズし」と自虐したのだが、前述した 2 日連続の市場介入、それも「日米協調介入実施」などもあり、今後風向きそのものが変わってくる可能性も否定できない。先週のレターで、通常 10-15 ヵ月の短期ドル安サイクルが、17 ヵ月程度へと延長され「9 月か 10 月にボトムを付ける」ーー公算もありうると一応ヘッジだけはしておいたが、果たしてどういった値動きをたどるのだろうか。まずは足もと、8 月相場の行方が注目されている。

◎7 月の市場介入は異例尽くし、注目される 8 月相場

以下では、月初恒例となっている経験則をもとにした「月間見通し」をレポートするが、7 月 30 日と 31 日に実施された市場介入は幾つかの意味で、かなり興味深くそして異例だった。まずは、そのあたりことを含めてお浚いしておきたい。

・日銀（正確には財務省）の単独介入ではなく、15 年ぶりの日米協調介入も一日だけだが実施された
・さらに言うと、韓国中銀もドル売り・自国通貨（ウォン）買い介入を実施していたとみられる
・日本は 2 日間ともドル売り・円買い介入だったが、米当局は初日がレートチェックのみ、2 日目がユーロ売り・円買い介入だったと考えられる
・米当局は、事前に複数の米銀などに対して「円買い（介入）」への注意を喚起していたと目される
・ロイターが報じた、ベッセント米財務長官の手もとメモによると、米国の介入は「50-100 億ドル」規模の可能性がある
・当座預金残高をもとにした推計では、日本の介入は 30 日が 6-8 兆円、31 日が 4-6 兆円と見られるーーなどになる

また、3 日には片山財務相とベッセント氏が揃って、「今後さらなる協調介入を実施することも躊躇しない」との談話を発表。加えて、トランプ米大統領からも「介入は日本との友好の証だ」発言も聞かれるなど、言わば豪華フルセット状態ともいえる環境だった。
先にも記したように、円安という基調そのものはまだ変わっていないと思っているのだが、上記のような日米協調そして協力関係を考えるとドルを積極的に買いにくくなった感も否めず、ヒョッとするとむしろ短期的にはドル安・円高方向へのリスクが強まる可能性すら否定できない気もしている。

ーーさて、前置きがかなり長くなってしまったが、以下で 8 月の見通しを。
最初に恒例となっている 8 月の星取表、1990 年以降昨年までの過去 36 年間の勝敗をみてみると、15 勝 21 敗という状況で円高が有利という結果だった。以前からたびたび報じているように、「8 月は円高有利」との論調は先で記したように必ずしも間違っているとは言えないのだが、近年は必ずしもそうではないとだけは言っておきたい。実際、2025 年まで直近 10 年に限れば、戦績はなんと 5 勝 5 敗の五分にとどまっている。あまり「円高有利」という経験則を過信せず、むしろ予断を抱かずに対応したい。

一方、それとは別に 8 月相場の特徴を見た場合、「動くか動かないか二極化する」ことが少なくない。とくに、近年はどちらか両極端となることがほとんどだ。
たとえば「動かない」ケースを幾つか挙げると、2020 年が月変動間 1.95 円で年間 11 位、翌 2021 年は同 2.08 円でこちらは年間 10 位。また、2025 年も月間変動は 4.70 円で、同 10 位にとどまっている。それに対して、「動いた」ケースは 2022 年がそれにあたり月間変動は 8.68 円で年間 4 位、2024 年は年間 5 位ながら月間変動は 9.20 円ーーを記録している。

今年は、先月の変動が年間 2 位を記録したこともあり、2 ヵ月連続の大変動を期待したいところだが、改めて指摘するまでもなく、先月は「市場介入」というある種の「ドーピング」があっての結果。よって、先月に続き 2 ヵ月連続の市場介入が観測されれば話は別だが、とくに何もなければ相場は再び膠着性を強めると

いった見方も少なくないようだ。
材料面で見ても、注目材料のひとつである日米の金融政策を決定するそれぞれの会合だが、前者米国の次回会合は 9 月 15-16 日、日本は 9 月 17-18 日で足もと 8 月は実施されない。もちろん、それが市場変動のすべてでないことは十二分に理解しているものの、当局介入に「怯え」つつ、結果的にドル/円は月間を通して小動きにとどまる可能性もあると考えている。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter